

コロンボ 日本人学校



コロンボ市街

Japanese School in Colombo

URL <http://srilanka.jscol.com>

児童生徒数 小=18人 中=3人

光輝く島

スリランカは日本の南西約七〇〇〇キロ、インド洋上に位置する涙の滴のような形をした島国である。北海道をひと回り小さくした面積に、約二〇〇万人が生活している。一九四八年にイギリスから

独立してセイロンと呼ばれていたが、七八年からスリランカ民主主義共和国となった。ズリは「光り輝く」、ランカは「島」を意味するともいわれる。現在の首都は、コロンボ近郊のスリジャヤワルダナプラコッテである。

この豊かな緑の島国スリランカの象徴は広大な茶畑であり、紅茶はスリランカを代表する特産品である。またブルーサファイアなど宝石の産地でもある。八つある世界遺産やシナモンをはじめとする数々のスパイスもこの国の魅力の一つである。

現地の教育環境

本校の児童生徒数は過去には五十人を超えた時期もあったが、内



小学部1～4年 英会話



IA授業

戦の影響等もあり昨今は二十人前後で推移している。本校以外の教育施設には、相当数のインターナショナルスクールや現地校があり、中学卒業後も海外で生活することを予定している子どもたちを中心に通学している。現地校のなかには、英語と共に日本語を学んでいる学校もある。

本校には幼稚部がないため、就学前の子どもは現地にあるインターナショナル幼稚園などに通っている。そして毎週金曜日の放課後には、本校を利用して日本人会のサークル「てらこや」が開かれ、未就学児の親子の触れ合い活動が行われている。

国際社会で活躍できる 児童生徒の育成

本校は児童生徒数が二十一人の小規模校である。児童生徒同士の仲がよく、上級生

校舎



交流サッカー



宿泊学習 世界遺産の仏歯寺へ



現地校との交流

日本人会と共催の運動会



校外学習 セラミック工場を見学



JSCフェスティバル 「キャンディアン・ダンス」

がリーダーとなって下級生の面倒を見ることが多い。休み時間には、学年の壁を越えてドッジボールをしたり、サッカーをしたりして遊ぶ光景がよく見られる。目指す児童生徒の姿として、「自ら考える子 心身ともにたくましい子 国際社会で活躍できる子」を設定し、ふだんの教育活動や学校行事を行う際には、そうした子どもたちの姿を意識した取り組みを行っている。なかでも国際社会で活躍できる児童生徒を育成するため、現地理解教育に力を入れている。IA（インターナショナル・アクティビティ）授業として、総合的な学習の時間に年十回の国際理解教育にかかわる授業を行っている。EC（英会話）授業も、小学部一年から週三校時実施している。一方、現地校とは年に二回交流会を行い、日本の昔の遊びをいっしょに楽しんだり、共に和太鼓合奏や合唱を行ったりして交流を深めている。また小規模校であることを生かして社会

体験活動を充実させ、多くの人と触れ合う機会をつくって社会性とコミュニケーション力の向上をはかっている。具体的には、本年度はコロンボ港にある日本資本の造船所や日本の製造業を訪問した。スリランカにおいて日本企業が現地に貢献している様子を見学したことは、子どもたちにとって国際社会を意識する機会にもなった。体力づくりでは、年間を通じてスポーツクラブのプールを借り上げ、現地のコーチと共に、毎週二校時を使って水泳の授業を行っている。また毎週金曜日にはサッカークラブの活動を行っている。小一から中三まで、全員が楽しみながらボールを追いかけて汗を流す。そのほか年に三回、縄跳び週間を設け、最終日には全校で検定会を行っている。

今後さまざまな学習活動を通して、心身共に健康でたくましく、国際社会で活躍できる児童生徒の育成を目指していきたい。

二〇一九年一月現在

子どもたちから

にわのジャクフルベノがある
のでたべたいです。

少人数だけで全校遊びなどが
楽しいから毎日が楽しみです。
(小4)

休み時間になったり、おんがで集まって
ドッジボールをして毎日毎日楽しい学校生活
送っています。(中2)